

福祉実践教室実施までの流れ

日進市社会福祉協議会（以下社協）

	学 校	社 協
4月上旬 ↓	予定表を社協に提出	各学校から予定書がそろい次第 様式②-1、②-2を送付
実施2か月前 ↓	<u>実施日の2か月前までに</u> 実施日・科目の正式決定 様式②-1、②-2を社協に提出	各科目団体及び愛知県社協へ 講師派遣依頼
1か月半前 ↓	社協と打合せ 体験コース、学校平面図等準備	学校に伺い打合せ 講師決定
1か月前 ～前日 ↓	テキスト、名簿等準備、 講師の下見、機材調整対応 資材の受け取り	講師が科目に応じて下見、機材調整 等に学校へ伺う 基本、前日に資材の搬入
当 日 ↓	福 祉 実 践 教 室 の 開 催	
	資材の返却	資材の搬出

※様式②-1、②-2の市社協への提出は、講師依頼の都合上、実施日の2ヶ月前までに
お願いいたします。

★高齢者疑似体験は、講師の都合上、実施（紹介）できませんのでご了承下さい。
（体験セットの貸出は可能。学校独自で講師の調整を行う場合は実施可です。）

<科目選択について>

- 他校と日時が重複した場合、同日開催はできません。その旨、両校に連絡いたしますので、調整をお願いいたします。
- 科目選択の際は、各科目のページをよくお読みいただき、実施可能人数等をご確認ください。
- 体験時間は50分～70分、全体講義は30分～90分（科目による）を目安にさせていただくと幸いです。**できるだけ50分未満の体験はお控えください。**
- 当事者講師がない場合があります。
- 昨年度の様子が日進市社会福祉協議会ホームページの「福祉協力校」のページに掲載されています。科目選択の参考にしてください。
- 交流給食を行う場合、各障害に配慮していただき、時間に余裕を持たせてください。

※その他、ご不明な点や実施についての相談などお気軽に社協までお問い合わせください。

<連絡先>

社会福祉法人 日進市社会福祉協議会
地域福祉係（担当：中城、中川）
TEL(0561)73-4885 FAX(0561)73-4954
メール info@nisshin-shakyo.or.jp

HP



打ち合わせ資料

実施一か月半前の打ち合わせにて使用します

【打ち合わせ内容】 実施日 _____ / _____ () _____

講師集合・終了後反省場所 _____ 備品搬入 _____ / _____ () _____ :

チャイム有無 有 (:) ・ 無 _____

□お願い事項□


◎講師来校時間帯は可能な限り校門を開けておいていただけると助かります。

(聴覚障害者がインターホンを利用できない等のため)

- 当日、駐車場～玄関～集合場所までの案内看板もしくは誘導等があると助かります。
- 玄関にイスをご用意ください。(講師の靴の履き替え時使用。)
- 講師名簿は講師が決まり次第、送付いたします。講師の名札は社協で用意します。
- 講師が各体験教室に移動の際は、できるだけ児童・生徒による誘導をお願いします。
- 各教室に必ずお1人は先生が付くようにしてください。講師がお手伝いをお願いする場合があります。また、質疑応答等での児童・生徒への指名は講師ではなく、先生に行っていただくようお願いいたします
- 当日は社会福祉協議会職員が1～2名参加します。今後の広報のために写真撮影をさせていただきます。掲載する際は学校に許可を得た写真のみ使用します。
- 講師の謝礼は社協がお支払いします。
- 講師にお礼のお手紙等を用意される際は、音声や点字等、各障害に配慮していただけると幸いです。事後学習には次のページの「福祉実践振り返り」もぜひご活用ください。

◎テキスト『思いだしてごらん』は各学校にてダウンロードし、

各自 iPad に送信または原寸サイズで印刷し**全員に配布**をお願いいたします。

思いだしてごらん 愛知県社会福祉協議会  で検索

福祉実践教室振り返り

受けた講座に○をつけてください。

車いす・手話・要約筆記・点字・盲導犬・ガイドヘルプ・発達障害理解・認知症理解

障害と ICT・まちの守り人

1. 福祉実践教室で学んだこと

2. 福祉実践教室でわからなかったこと

～福祉実践教室 各体験科目について～

車いす	・・・・・・・・・・・・・・・・	6
車いすコース見本	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
手話	・・・・・・・・・・・・・・・・	8
要約筆記	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
点字	・・・・・・・・・・・・・・・・	10
盲導犬	・・・・・・・・・・・・・・・・	11
ガイドヘルプ	・・・・・・・・・・・・・・・・	12
ガイドヘルプコース見本	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
発達障害理解	・・・・・・・・・・・・・・・・	14
認知症理解	・・・・・・・・・・・・・・・・	15
障害とICT	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
まちの守り人	・・・・・・・・・・・・・・・・	17
全体講義	・・・・・・・・・・・・・・・・	18
講師紹介	・・・・・・・・・・・・・・・・	19

<車いす体験>

実施場所：体育館・屋内

講師人数：1クラス2人（障害者1，介助ボランティア1）

実施可能人数：1クラス30人程（最大1クラス）



打ち合わせ～実施までの流れ

	社協準備	学校準備
打合せ時		コース図の用意（見本通りであれば不要）
前日まで		<ul style="list-style-type: none"> 事前学習（動画視聴） 日進市社会福祉協議会 HP「福祉協力校」にある動画2本 <ul style="list-style-type: none"> 3人グループを決める
前日	車いすの搬入（最大9台）	コースの準備（コース図参考） 備品 マット、コーン、ペットボトル等
当日	車いすの搬出	備品 マイク2本 終了後、車いすを搬出しやすい場所に移動

授業の流れ（例）

- 車いすの各部分の名称と働き、開閉方法等の説明を聞きます。
- 3人1組（車いすに乗る人、車いすを押す人、介助する人）で体験をし、車いすに乗っている人がどうしたら安心かを学びます。
- 車いす利用者のお話を聞き、まちの中でどのようなお手伝いができるかを考えます。

*車いすの講師が必要時に、エレベーター、簡易スロープ等の用意をお願いする場合があります。
 *体験場所では手に何も持たない状態で集合してください。探検バック等は隅に置いてから集合してください。

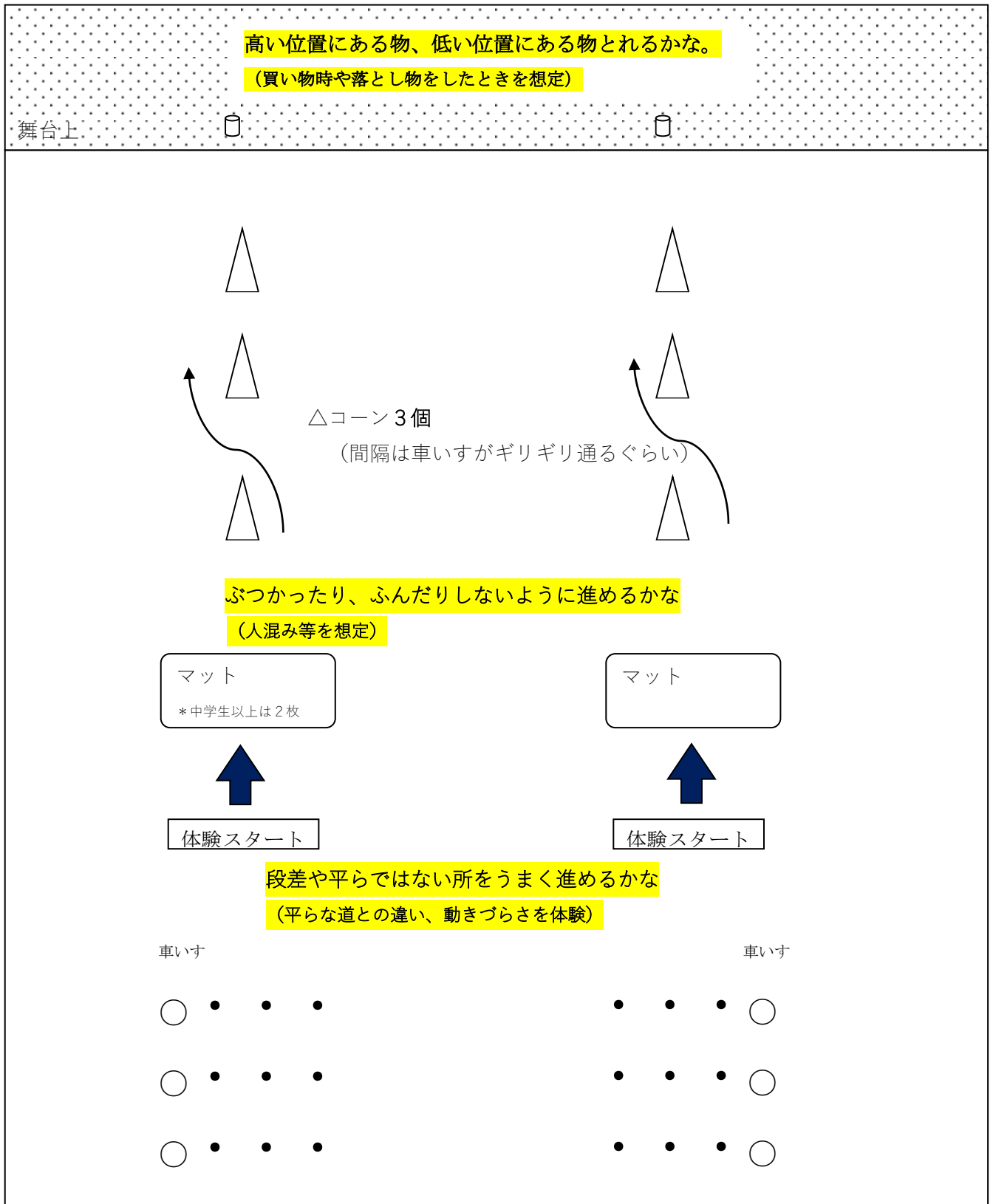
*座る・立つの動作を繰り返すので、特に女子児童・生徒の服装についてハーフパンツを着用してもらうなど、ご配慮ください。

*他の科目と比べ、動きのある体験になります。見守りをお願いできる先生・保護者・ボランティアの方がいらっしゃれば、お手伝いをお願いします。

*先生も一緒に体験していただくと、児童・生徒の関心も高くなるため、講師は大歓迎です。

「車いす体験コース見本」

※見本は、体育館等、スペース全体が見渡せる所を想定しています。



<手話体験>

- 実施場所 : いす、黒板のある教室
 講師人数 : 1クラス2人(障害者1, 通訳者1)
 実施可能人数 : 1クラス20人程(最大4クラス)



打ち合わせ～実施までの流れ

	社協準備	学校準備
前日まで		<ul style="list-style-type: none"> 事前学習の案内(手話資料) 参加児童・生徒のふりがな付きの名簿の用意(名前を手話で表すときに使用します)
当日		<ul style="list-style-type: none"> 名簿を教卓に置いておく。 机を後ろに下げて、椅子のみを半円状に並べる。 黒板に資料を掲示することがあるので、黒板をきれいにしておく。マグネットを10コ程用意する。 (講師によってスクリーンを使用することがあります)

授業の流れ(例)

- 聴覚障害者のお話を聞き、どのような不便があって、どのように工夫して生活しているか、どのような配慮が必要かを学びます。
- 簡単なあいさつ、自己紹介の手話を学びます。ゲームやクイズをすることもあります。
- 参加する児童・生徒の名前を指文字や手話で表します。

*講師の手話を正面から見えるようになるべく横に広がらないよう気をつけてください。手話に集中してもらいたいため、教材、メモ等も手元に置かないでください。

(高等学校ではグループワークをする場合もございますので、5～6人のグループを作っておいて下さい)

<要約筆記（書いて伝える）体験>

実施場所 : 机、いす、テレビのある教室

講師人数 : 1クラス3名（障害者1，要約筆記ボランティア2）

実施可能人数 : 1クラス30人ぐらいまで（最大1クラス）



打ち合わせ～実施までの流れ

	社協準備	学校準備
前日まで		事前学習の案内 ① Youtube で『なんちょうなんなん難聴理解の促進』動画視聴 ② テレビ番組（あるいは YouTube 等）を消音にして見る⇒字幕を付けて見る。
前日	OHC、電源タップ、 水性ペン（黒人数分・赤4本）、 耳マークメモ用紙、 A4 コピー用紙（1人2枚） の搬入	
当日		備品スクリーン、プロジェクター、机2～3台、椅子3脚、テレビ（パソコンテイクの場合） ＊児童生徒の机に黒ペン、耳マークメモ、コピー用紙を授業が始まる前に配布しておく。

授業の流れ（例）

- ・難聴者の体験談を聞き、日常生活でどのようなことに不便があるのか、どのような配慮が必要かを学びます。
- ・まちの中で誰にでもできるお手伝いの方法である、「書いて伝える」（要約筆記）について、体験を通して学びます。

＊講師が集合時間の30分前に会場準備に入ります。お一人先生にお手伝いをお願いいたします。

<点字体験>

実施場所：通常の教室

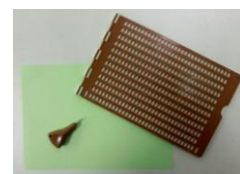
講師人数：1クラス2人<障害者1，点訳ボランティア1>

実施可能人数：1クラス30人程（最大2クラス）



打ち合わせ～実施までの流れ

	社協準備	学校準備
前日まで		<ul style="list-style-type: none"> 参加児童・生徒のふりがな付きの名簿の用意（名前を打つときの注意点を伝えるときに使用します）
前日	点字器、点筆、点字用紙を搬入	
当日		<ul style="list-style-type: none"> 名簿を教卓に置いておく。 備品机といすを1つずつ用意する。 黒板に資料を掲示することがあるので、黒板をきれいにしておく。 マグネットを10コ程用意する。 体験がすぐに始められるよう、授業前に点字資料、点字器、点筆、点字用紙を各児童・生徒の机に配布しておく。 点字器・点筆は授業後に数を確認して講師に渡していただくか、講師集合場所に返却ください。



授業の流れ（例）

- 身の回りの点字のこと、点字の歴史等のお話をします。
- 点字の書き方（打ち方）、点字特有のルール等を学び、学校名や自分の名前を点字で打つ体験をします。（時間があれば打った点字を講師が読んで確認をします）
- 視覚障害者の普段の生活の様子や、どのような工夫をしているか。どのような配慮が必要かを学びます。

*講師によっては、盲導犬を連れている場合があります。動物アレルギーがある児童生徒に注意してください。打ち合わせ時に社協よりお渡しする盲導犬に関する資料 P9 の内容を、児童・生徒および先生方にご周知くださいますようお願いいたします

<盲導犬の話>

- 実施場所 : 教室など。
 講師人数 : 1名（盲導犬ユーザー）
 実施可能人数 : 1クラス60人程（最大1クラス）



打ち合わせ～実施までの流れ

	社協準備	学校準備
		<ul style="list-style-type: none"> 盲導犬資料のP.9（お願い事項）の内容を周知する。
当日	ペットボトル 2本 （レクリエーション用）	<ul style="list-style-type: none"> 備品机、いす、マイク、OHC（実物投影機）またはiPad等の手元が写せる物、プロジェクター、スクリーンの用意 児童・生徒に目隠しできる物（赤白帽等）、盲導犬資料を持参するよう声掛けをする。
授業の流れ（例） <ul style="list-style-type: none"> 視覚障害者の普段の生活の様子や、どのような工夫をしているか、どのような配慮が必要かを学びます。 目隠しをしてペットボトルリレー等のレクリエーションをします。（人数によって実施しない場合もあります） 盲導犬との生活の様子や、どのような手助けを望んでいるか等のお話をします。 		

*講話中心のため、できましたら静かな教室をご用意ください。

*先生にお手伝いをお願いすることがあります。（写真の投影や寸劇等のお手伝い）

<視覚障害者ガイドヘルプ体験>

- 実施場所 : 説明をするための拠点となる教室及び廊下
 講師人数 : 1クラス3人(障害者1、ガイドヘルプボランティア2)
 実施可能人数 : 1クラス30人程(最大1クラス)



打ち合わせ～実施までの流れ

	社協準備	学校準備
打合せ時		コース図の用意(見本通りであれば不要)
前日まで		2人ペア(ガイドする人、ガイドされる人)を決める
前日		コースの準備(コース図参照) 備品 マット、コーン、机
当日	白杖4本	備品 いす3(講師用)、マイク2本、 目隠しできる物(小学生のみ。赤白帽子等)

授業の流れ(例)

- ・ガイドするときの基本姿勢、注意事項(歩き始め、曲がる時、段差や階段を上り下りするとき、椅子に誘導するとき等)を学びます。
- ・2人1組でガイドされる人、ガイドする人の体験をし、ガイドされるときにどのような不安を感じるか、ガイドするときに相手を不安にさせないようにするには、どのようにしたらいいかを体験します。時間があれば、白杖体験も行います。
- ・視覚障害者から日頃の生活の様子を聞き、周りの人がどのようなことに配慮すればもっと暮らしやすくなるかを考えます。

*コース、2人組は児童・生徒にあらかじめ周知してください。体験がスムーズに行えます。

*体験時騒がしくなります。他の授業の迷惑にならないようにコースを準備してください。

*他の科目と比べ、動きがあり危険を伴う体験になります。見守りをお願いできる先生・保護者・ボランティアの方がいらっしゃれば、お手伝い願います。

*履物は脱げにくい物(シューズ等)が望ましいです。

<発達障害理解の話>

実施場所 : 教室など
 講師人数 : 1~2名(障害児の親)



実施までの流れ

	社協準備	学校準備
当日	講師が集合時間の30分前に準備に入る。	テレビ又は、プロジェクター&スクリーン等、パソコンがつながる環境。 備品 *体育館等で行う全体講義の際は、マイク、司会者台、机・椅子各1 *普通教室で行う際は教卓、机1、椅子各1
授業の流れ <p>発達障害は見た目ではわかりにくい障害です。今でも本人のわがままや親のしつけのせいなどと誤解されることも少なくありません。そのような誤解を解いてもらえるよう、発達障害の特性や発達障害の人との関わり方、発達障害の人のすごいところなどをドキュメンタリー番組の視聴やパワーポイントでわかりやすく説明します。</p> <p>発達障害の人たちの困り感を感じてもらえるような体験、障害全体の理解を深めるための人権や法律の話、絵本の朗読など、対象の児童・生徒の年齢に合わせた内容でお話します。</p>		

<認知症理解の話/認知症サポーター養成講座>

- 実施場所 : 教室など
 講師人数 : 2名～4名（地域包括支援センター職員、市職員など）
 実施可能人数 : 制限なし



実施までの流れ

	社協準備	学校準備
当日	講師が集合時間の30分前に準備に入る。	備品机、イス、マイク、プロジェクター、PC、スクリーンまたは大型テレビ、DVDプレーヤー

授業の流れ

認知症を正しく理解するために、地域包括支援センターの職員等が講師となり、「認知症サポーター養成講座」と題して、パワーポイントや寸劇等で、その行動や心理状態、接するときの心構え等、詳しく説明します。

- * 講話中心のため、できましたら静かな教室をご用意ください。
- * 寸劇を行うことがありますので、着替える部屋の用意をお願いします。
- * 寸劇を行うことがありますので、教室前方にスペースを確保してください。
- * 講師がUSB又はPCを持参し、パワーポイント等を用いて講義を進めます。（講師によって変わります）
- * 70分～90分の認知症サポーター養成講座を受けていただくと、サポーターの証としてカード等をお渡しします。

<障害とICT> *科目内容変更あり

実施場所 : 教室
講師人数 : 1名(障害者1名)
実施可能人数 : 30人まで(最大1クラス)

打合せ～実施までの流れ


	社協準備	学校準備
当日		備品マイク
授業の流れ 障害者の普段の生活の様子や、どのような工夫をしているか、どのような配慮が必要かを、クイズやゲームを通して楽しく学びます。		

<まちの守り人養成講座>

- 実施場所 : 教室など
 講師人数 : 1名～(社協職員)
 実施可能人数 : 制限なし



打合せ～実施までの流れ

	社協準備	学校準備
打合せ時	資料	
当日	<ul style="list-style-type: none"> 講師が集合時間の15～20分前に準備に入る。 認定カード 	<p>備品 プロジェクター&スクリーン等、パソコン、机、イス。会場が広い場合はマイク。 ＊児童に資料を持参するよう声掛けをする。</p>

授業の流れ

福祉ってなんだろう？ 守り人ってなんだろう？ 自分に出来る事ってなんだろう？などをわかりやすくお話しします。

- ＊講話中心のため、できましたら静かな教室をご用意ください。
- ＊講師がUSB(あるいはノートPC)を持参し、パワーポイント等を用いて講義を進めます。
- ＊既定の内容・時間の養成講座を受けていただくと、守り人の証として「認定カード」をお渡しします。

～全体講義 科目について～

＜ 車いす・手話・要約筆記・点字・盲導犬・視覚障害者ガイドヘルプ・発達障害理解・認知症理解/認知症サポーター養成講座・まちの守り人養成講座 ＞

実施場所 : 体育館、大きめの教室など
講師人数 : 1人(内容によって変動あり)
実施可能人数 : 特に上限はなし
学校準備 : 長机1, 椅子1, マイク
講師の希望により黒板、
パソコン、プロジェクター、
スクリーン等
社協備品 : 必要に応じて資料等



※所要時間については受講人数、選択科目、内容により変わります。30分～を目安にお願いします。

※内容によって事前打ち合わせをお願いすることもございます。

＜外部団体による講演＞

① 盲導犬(P R犬)の派遣(主に小学校)

内 容 : 盲導犬について、訓練の実演等

依 頼 先 : 社会福祉法人 中部盲導犬協会

講 師 : 中部盲導犬協会職員、P R犬

実施可能人数 : 学年単位以上

(人数が少ない場合は複数学年でお願いすることもあります。)

時 間 : 60～90分

費 用 : 協会へ直接申し込みの場合、運営の寄付金として18,000円～+交通費(令和3年度)、社協から申し込みの場合は社協が負担します。

② 介助犬(P R犬)の派遣

内 容 : 介助犬の講演、デモンストレーション

依 頼 先 : 社会福祉法人 日本介助犬協会 介助犬訓練センター～シンシアの丘～

講 師 : シンシアの丘職員、P R犬

実施可能人数 : 学年単位以上

時 間 : 60分程度

費 用 : 運営のための寄付金として、30,000円+交通費(令和3年度)

※①②とも各地で講演を行っているため、早期の予約が必要です。日によっては開催が出来ないこともございます。詳しくは社協までお問合せ下さい。

<講師紹介>

福祉実践教室の講師は、日進市内で活動されているボランティアグループや日進市内の事業所に依頼をしています。各科目を担当するボランティアグループや事業所について、簡単に紹介をします。

・ハッピーマップ（車いす）

障害のある人の自立を目指した活動をしています。

・日進・長久手・東郷聴覚障害者協会、愛知県手話通訳問題研究会（手話）

手話通訳や聴覚障害者についての研修、情報提供をしています。

・OHP かかし（要約筆記）

難聴・中途失聴者への情報保障のために話し言葉を要約文で伝える、要約筆記の活動をしています。

・アイの友クラブ（点字）

視覚障害者に不平等が生じない社会を作るため点訳と情報提供をしています。

・点字クラブポツポツ（点字）

視覚障害者への広報誌・本等の点訳及び小中高校での点字教室を行っています。

・グループあいあい（視覚障害者ガイドヘルプ）

視覚障害者に関する事柄を共に話し合っって認識と理解を深め、相互の親睦と交流を図っています。

・ガイドヘルプひまわり（視覚障害者ガイドヘルプ）

視覚障害者のガイドヘルプ、交流をしています。

・NPO 法人じゃんぐるじむ（発達障害理解）

「誰もが明るく当り前に存在したい」その願いを叶えたい。障がいをもつ子どもの家族が生き生きと誇りを持って生きていくために、障がいをもつ子ども自身が生まれてきた幸せをかみしめて生きていくために今までの活動を通し、私たちにできることを考え、実行し、目指す思いをより具体的にするために取り組んでいます。



ホームページ

・地域包括支援センター〈中部・東部・西部〉（認知症理解）

地域で暮らす高齢者が住み慣れた地域でいつまでも健やかに暮らしていけるよう、介護・福祉・健康・医療など様々な面から、支援や相談対応を行っています。

・日進市社会福祉協議会（まちの守り人講座、赤い羽根共同募金講座等）

地域の人びとが住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざしたさまざまな活動をおこなっています。



ホームページ



日進市社会福祉協議会
ボランティアセンター
Instagram